令和８年度第１回市政アンケート結果（概要）

市政アンケートモニター制度に基づき実施した令和８年度第１回市政アンケート結果の概要は、以下のとおりです。

１　アンケート名

住宅取得支援に関するアンケート

２　アンケート実施期間

令和８年９月２８日（月）～同年１０月１２日（月）

３　回答者数／回答率

４８２名／７２．７％（モニター登録者数６６３名）

４　回答者の属性別内訳

属性		回答者数（名）	割合
性別	男性	224	46.5%
	女性	250	51.9%
	その他	8	1.7%
年齢	18～29 歳	33	6.8%
	30～39 歳	31	6.4%
	40～49 歳	88	18.3%
	50～59 歳	131	27.2%
	60～69 歳	102	21.2%
	70～79 歳	85	17.6%
	80 歳以上	12	2.5%
居住地区	塩谷地区	7	1.5%
	長橋・オタモイ地区	49	10.2%
	高島地区	18	3.7%
	手宮地区	18	3.7%
	中央地区	87	18.0%
	山手地区	75	15.6%
	南小樽地区	91	18.9%
	朝里地区	101	21.0%
	銭函地区	36	7.5%
全体		482	100.0%

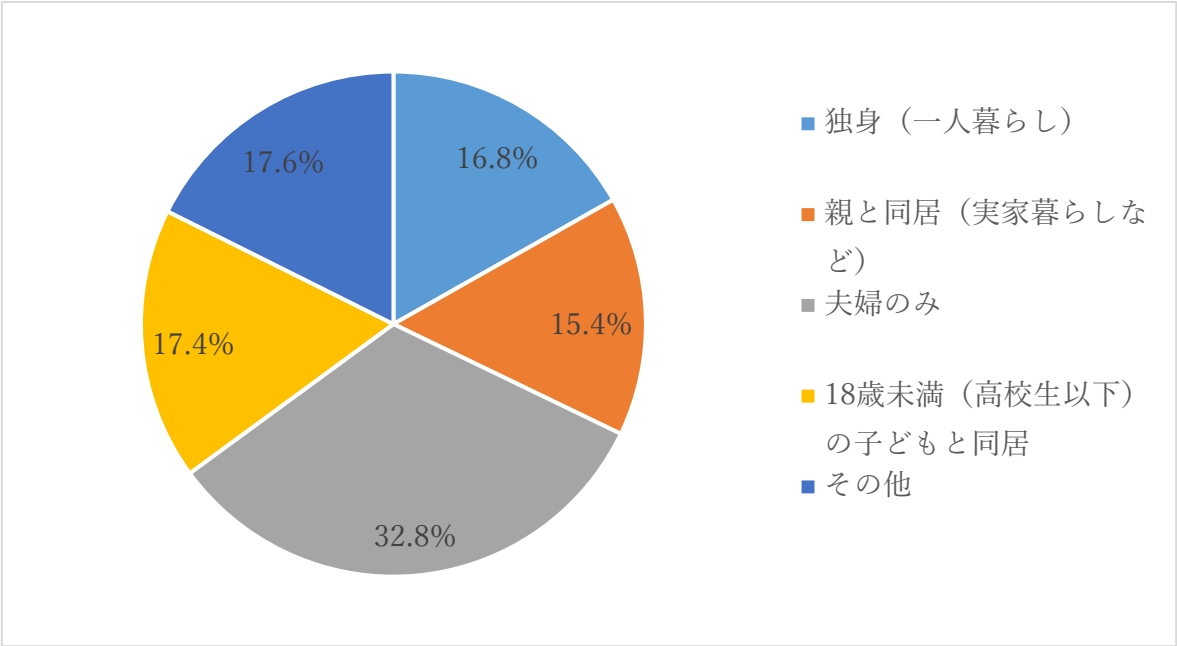
●塩　谷　地　区	蘭島、忍路、桃内、塩谷
●長橋・オタモイ地区	オタモイ、幸、長橋、旭町
●高　島　地　区	祝津、赤岩、高島
●手　宮　地　区	手宮、末広町、梅ヶ枝町、錦町、清水町、豊川町、石山町、色内３丁目
●中　央　地　区	稲穂、花園、色内１・２丁目、港町、堺町、東雲町、山田町、相生町、入船１・２丁目
●山　手　地　区	富岡、緑、最上、松ヶ枝、天狗山、入船３～５丁目
●南小樽地区	住ノ江、住吉町、有幌町、信香町、若松、奥沢、天神、真栄、潮見台、新富町、勝納町、若竹町、築港
●朝　里　地　区	桜、船浜町、朝里、新光、望洋台、新光町、朝里川温泉
●銭　函　地　区	張碓町、春香町、桂岡町、銭函、見晴町、星野町

５　設問ごとの回答内訳

※　端数処理の関係で、回答割合の合計が 100%にならない場合があります。
※　複数選択可の設問については、回答割合の合計は 100%になりません。
※　複数選択可の設問中の「N」は、当該設問の回答者数を表しています。

Ｑ１：あなたの現在の世帯の状況（同居のご家族）について教えてください。

	回答数	割合
独身（一人暮らし）	81	16.8%
親と同居（実家暮らしなど）	74	15.4%
夫婦のみ	158	32.8%
18 歳未満（高校生以下）の子どもと同居	84	17.4%
その他	85	17.6%
合計	482	100.0%



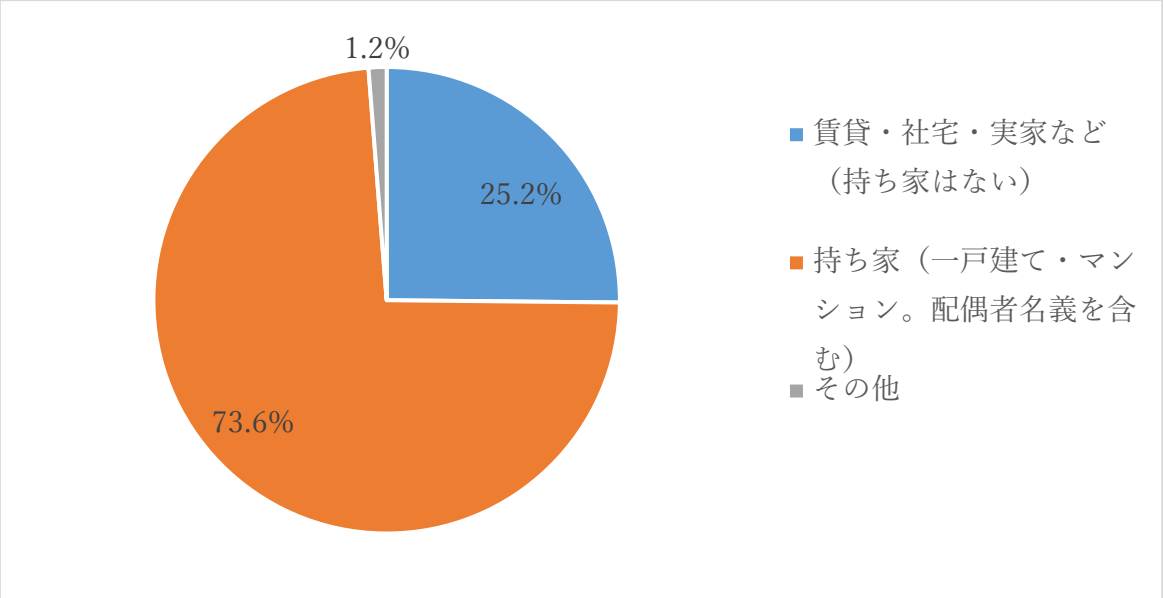
Ｑ２：現在のお住まいの状況を教えてください。

	回答数	割合
賃貸・社宅・実家など（持ち家はない）	121	25.2%
持ち家（一戸建て・マンション。配偶者名義を含む）	354	73.6%
その他	6	1.2%
合計	481	100.0%

＜「その他」の主な内容＞

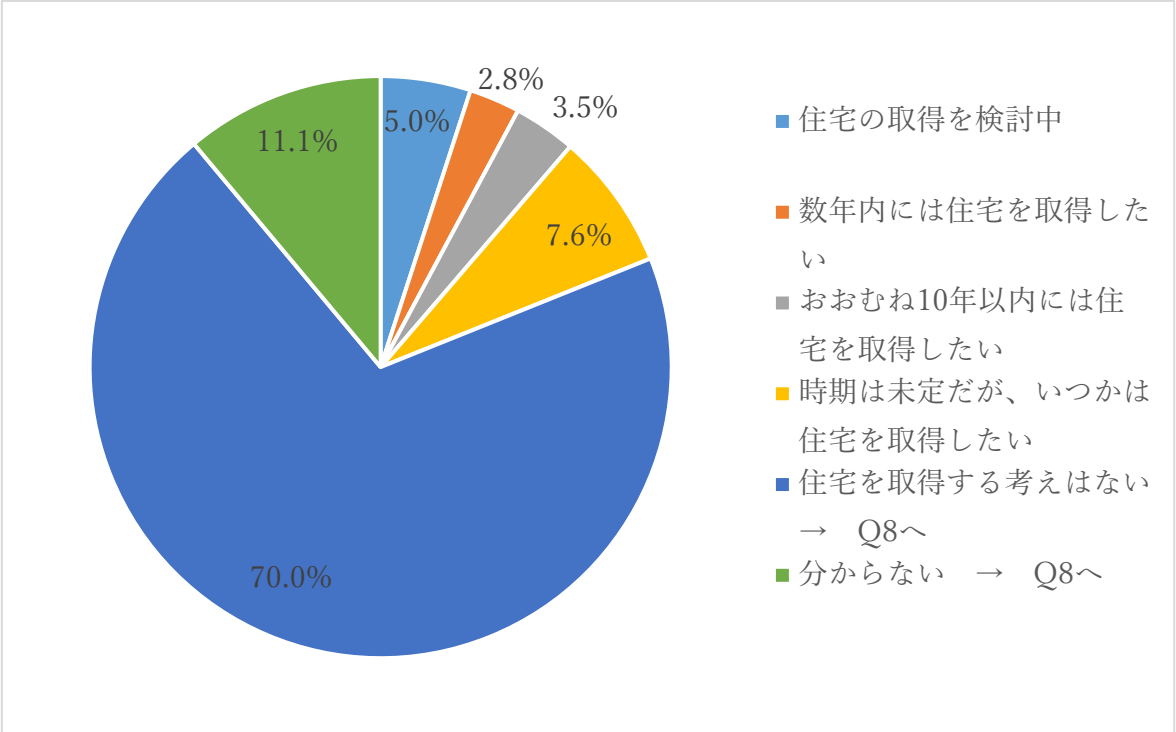
・東日本大震災による避難

・親（家族）名義の持ち家



Ｑ３：あなた自身の住宅取得の意向について教えてください。

	回答数	割合
住宅の取得を検討中	23	5.0%
数年内には住宅を取得したい	13	2.8%
おおむね 10 年以内には住宅を取得したい	16	3.5%
時期は未定だが、いつかは住宅を取得したい	35	7.6%
住宅を取得する考えはない　→　Q8 へ	322	70.0%
分からない　→　Q8 へ	51	11.1%
合計	460	100.0%



Ｑ４：取得したい住宅のタイプを教えてください。【複数選択可】

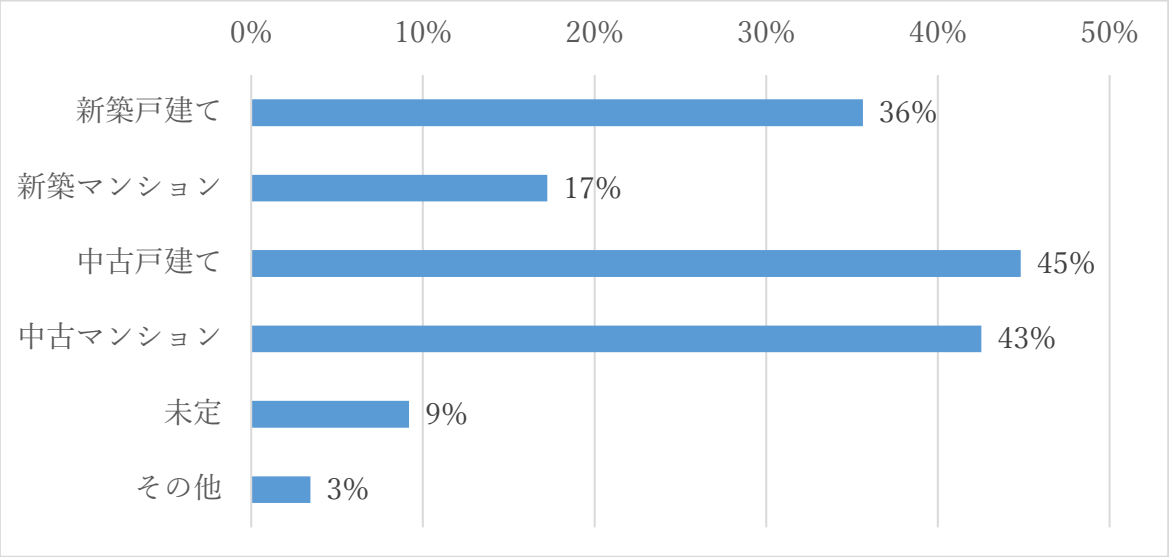
	回答数	割合
新築戸建て	31	36%
新築マンション	15	17%
中古戸建て	39	45%
中古マンション	37	43%
未定	8	9%
その他	3	3%

(N=87)

＜「その他」の主な内容＞

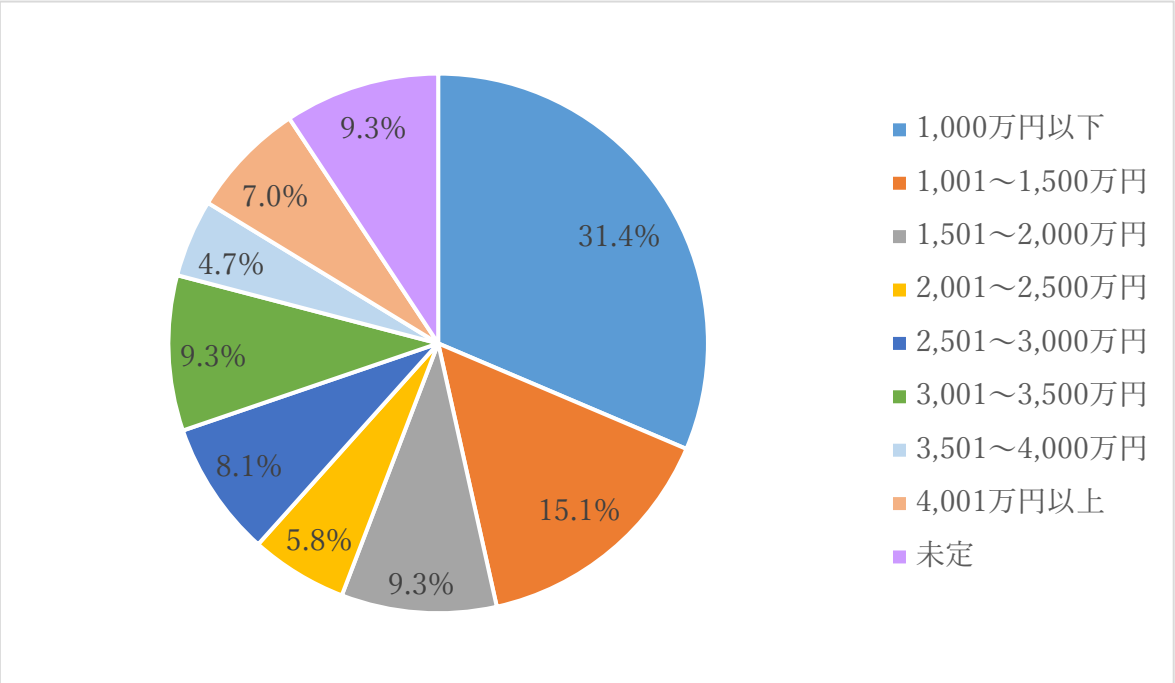
・介護付き有料老人ホーム

・親からの贈与



Ｑ５：取得したい住宅のおおよその想定価格帯を教えてください。（土地・建物・リフォームの総額）

	回答数	割合
1,000 万円以下	27	31.4%
1,001～1,500 万円	13	15.1%
1,501～2,000 万円	8	9.3%
2,001～2,500 万円	5	5.8%
2,501～3,000 万円	7	8.1%
3,001～3,500 万円	8	9.3%
3,501～4,000 万円	4	4.7%
4,001 万円以上	6	7.0%
未定	8	9.3%
合計	86	100.0%

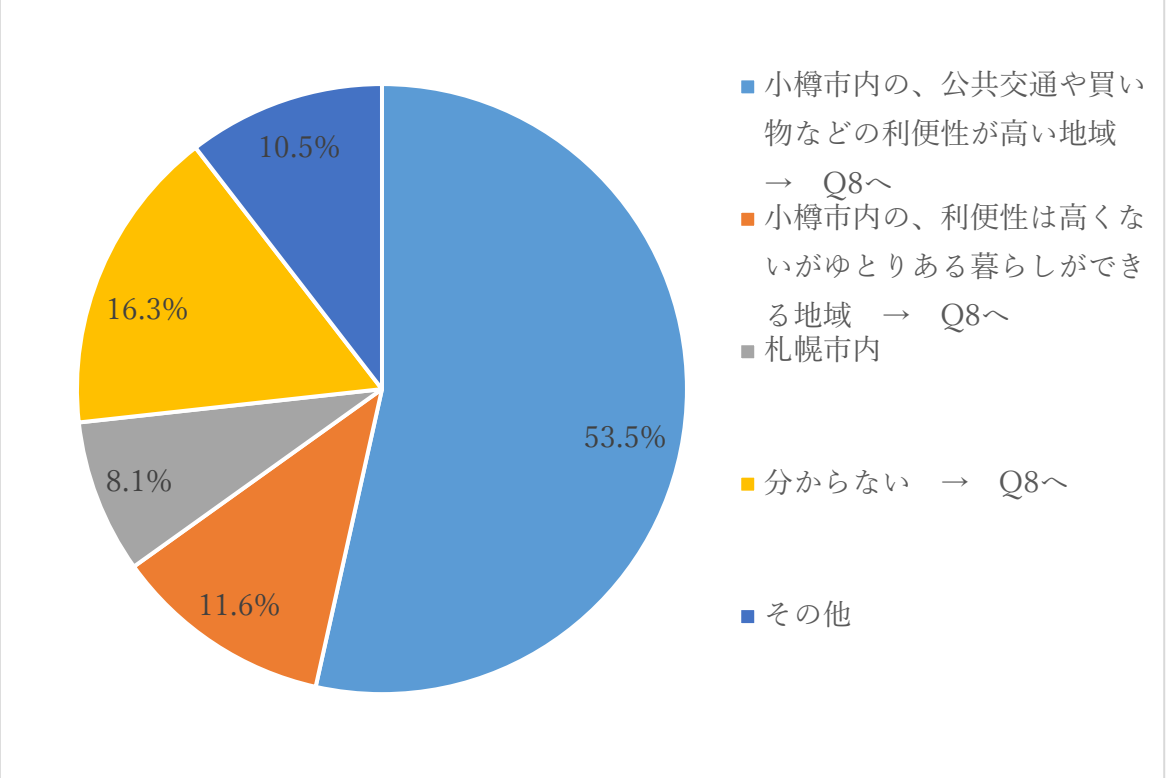


Ｑ６：どこで住宅を取得したいですか？（住宅を取得するときにどこに住みたいか）

	回答数	割合
小樽市内の、公共交通や買い物などの利便性が高い地域　→　Q8へ	46	53.5%
小樽市内の、利便性は高くないがゆとりある暮らしができる地域　→　Q8へ	10	11.6%
札幌市内	7	8.1%
分からない　→　Q8へ	14	16.3%
その他	9	10.5%
合計	86	100.0%

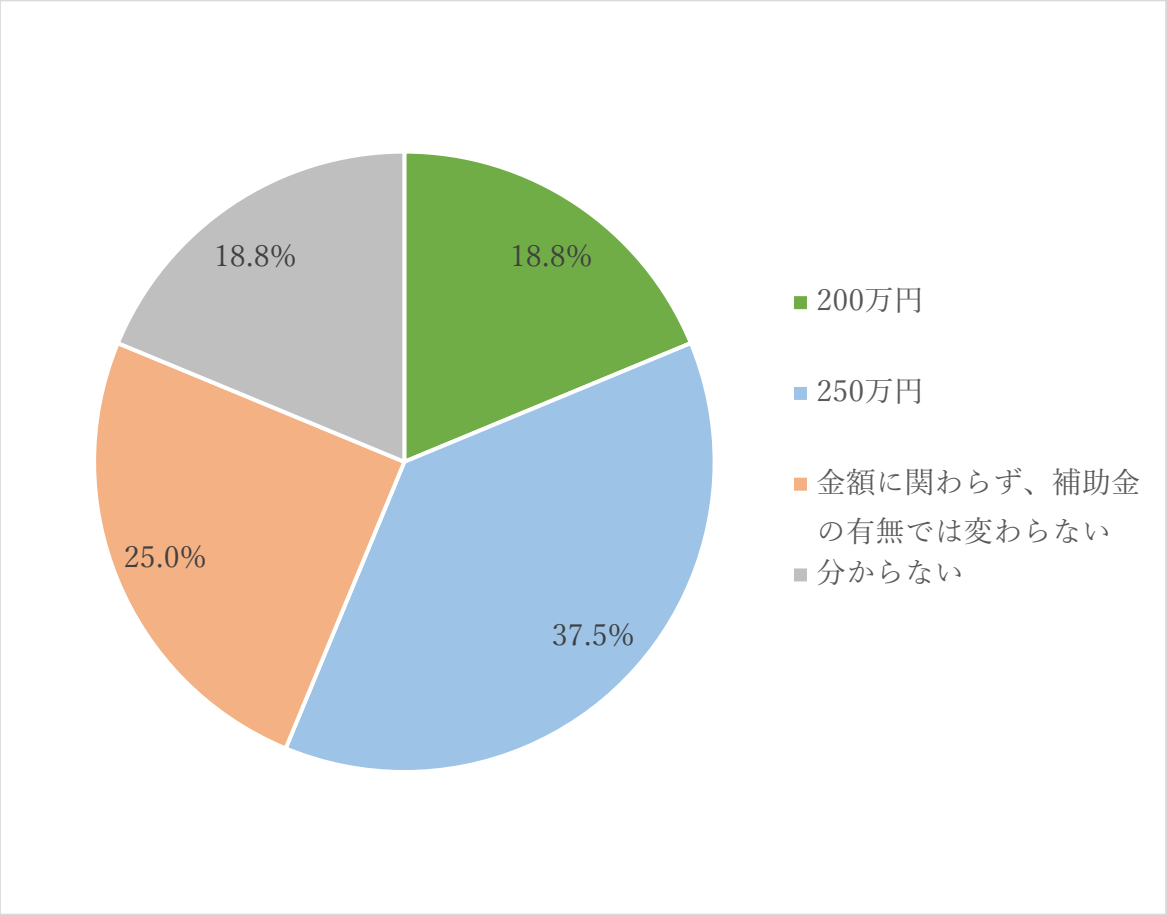
＜「その他」の主な内容＞

・恵庭～小樽間
・東京都
・長野県
・札幌～苫小牧周辺エリア



Ｑ７：補助金がいくら以上あれば、小樽市内で住宅を取得する可能性が高まりますか？

	回答数	割合
25 万円	0	0.0%
50 万円	0	0.0%
75 万円	0	0.0%
100 万円	0	0.0%
150 万円	0	0.0%
200 万円	3	18.8%
250 万円	6	37.5%
金額に関わらず、補助金の有無では変わらない	4	25.0%
分からない	3	18.8%
合計	16	100.0%



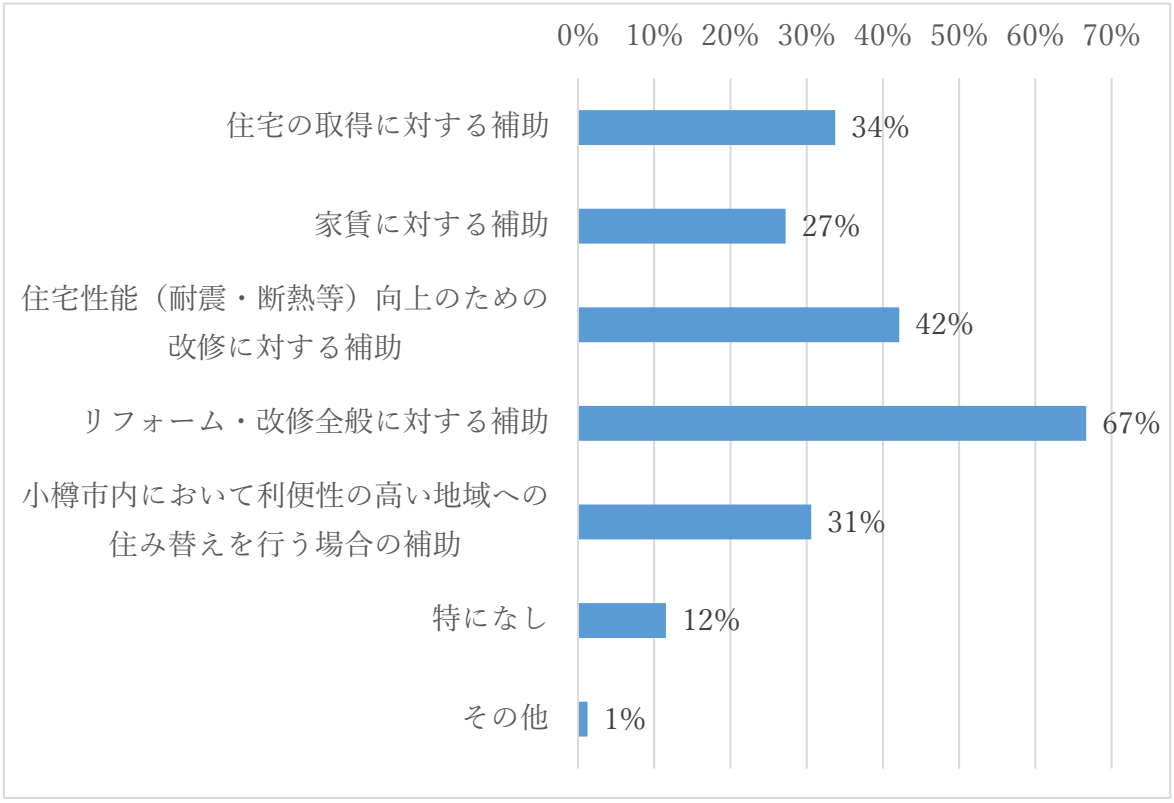
Ｑ８：次の住宅支援制度があった場合、利用したいと思うものを選択してください。【複数選択可】

	回答数	割合
住宅の取得に対する補助	161	34%
家賃に対する補助	130	27%
住宅性能（耐震・断熱等）向上のための改修に対する補助	201	42%
リフォーム・改修全般に対する補助	318	67%
小樽市内において利便性の高い地域への住み替えを行う場合の補助	146	31%
特になし	55	12%
その他	6	1%

（N=477）

＜「その他」の主な内容＞

・持ち家（非居住）を処分したい
・水道光熱費の支援
・住宅ローンの減税をもっと高額にして、市民税や光熱費の負担、冬季燃料代、公共交通機関の助成や援助など多岐にわたって希望
・古い家の解体
・バリアフリーの住宅への住み替え支援
・街の環境美化に貢献する、例えば植栽資金や公共空間の豊かさに期する資金に対する補助

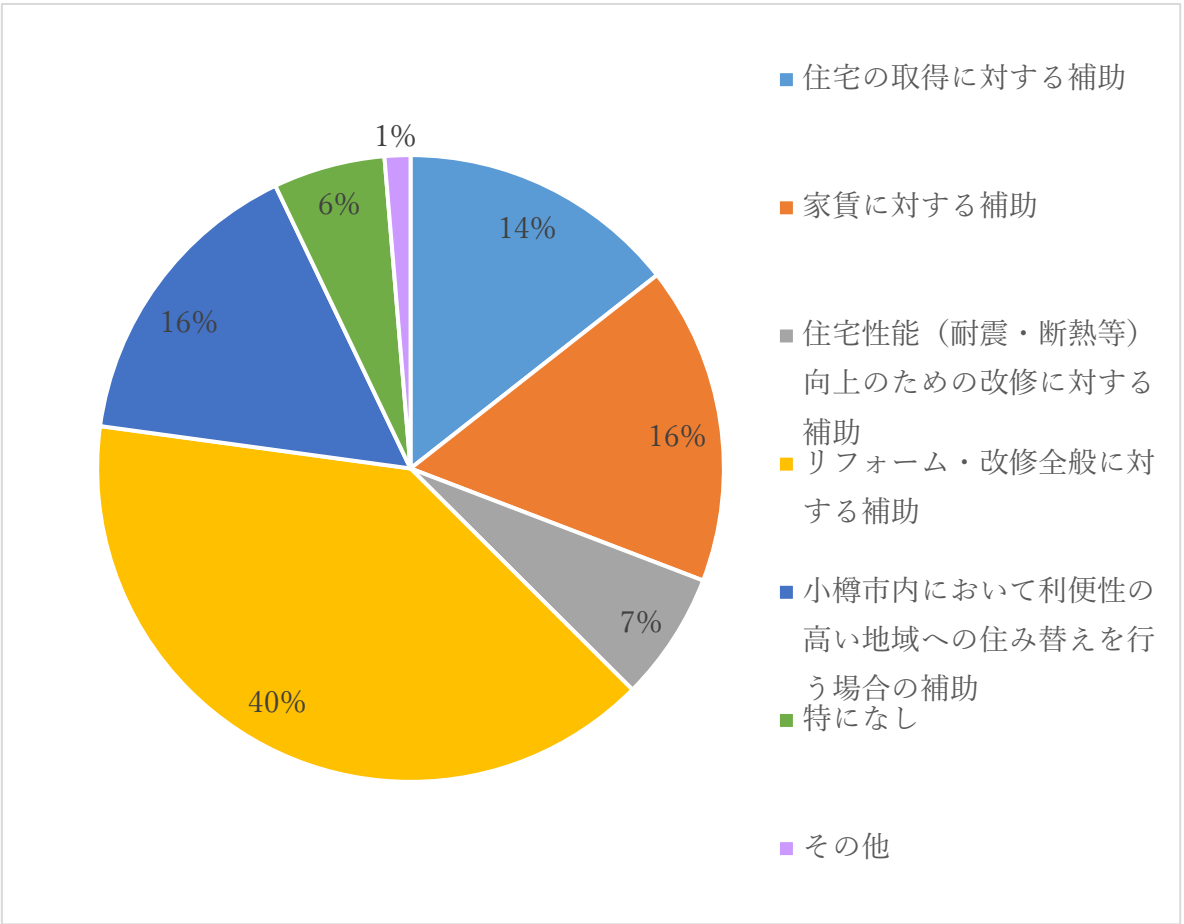


Ｑ９：Ｑ８で「利用したい」と回答した支援制度のうち、今後も小樽市内に住み続ける可能性が最も高まるものを一つ選択してください。

	回答数	割合
住宅の取得に対する補助	65	14%
家賃に対する補助	74	16%
住宅性能（耐震・断熱等）向上のための改修に対する補助	30	7%
リフォーム・改修全般に対する補助	179	40%
小樽市内において利便性の高い地域への住み替えを行う場合の補助	71	16%
特になし	26	6%
その他	6	1%
合計	451	100%

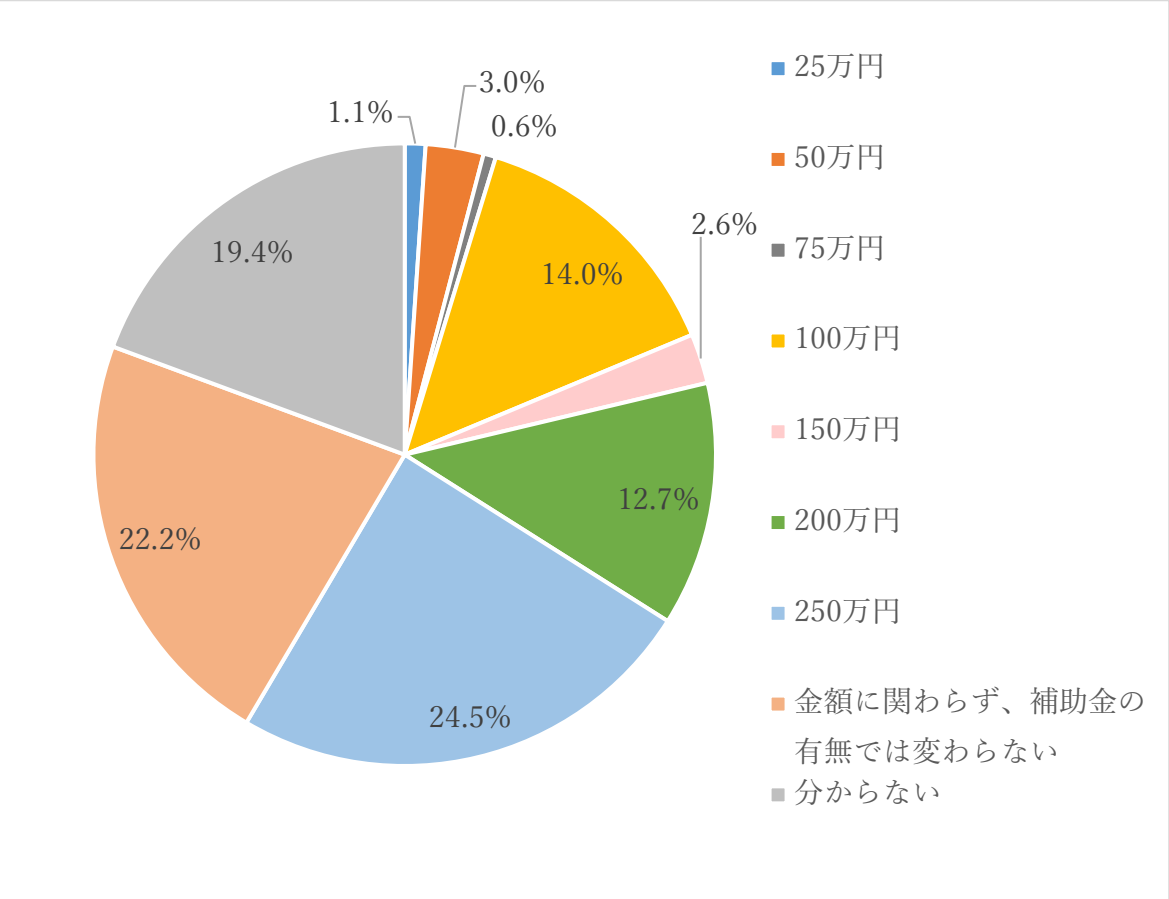
＜「その他」の主な内容＞

・雪対策、融雪溝など
・たるトク健診の内容の充実
・水道光熱費の支援
・バリアフリーの住宅への住み替え支援
・街の環境美化に貢献する、例えば植栽資金や公共空間の豊かさに期する資金に対する補助



Q10：住宅取得費補助がいくら以上あれば、住宅取得の意向が高まりますか？（「取得時期が早まる」、「予定なしから可能性ありに変わる」も含みます）

	回答数	割合
25 万円	5	1.1%
50 万円	14	3.0%
75 万円	3	0.6%
100 万円	65	14.0%
150 万円	12	2.6%
200 万円	59	12.7%
250 万円	114	24.5%
金額に関わらず、補助金の有無では変わらない	103	22.2%
分からない	90	19.4%
合計	465	100.0%

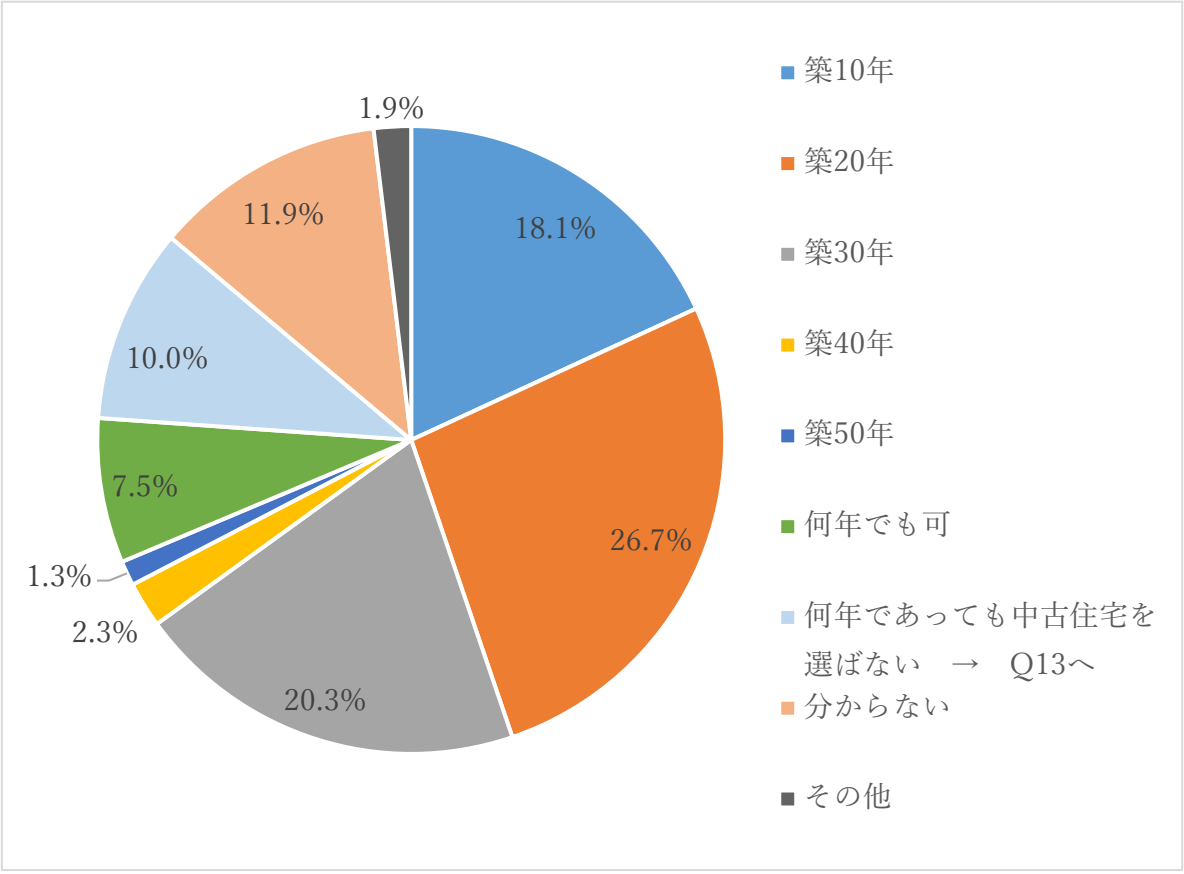


Q11：仮に中古住宅を取得するとした場合、築何年までの物件であれば許容されますか？

	回答数	割合
築 10 年	85	18.1%
築 20 年	125	26.7%
築 30 年	95	20.3%
築 40 年	11	2.3%
築 50 年	6	1.3%
何年でも可	35	7.5%
何年であっても中古住宅を選ばない　→　Q13 へ	47	10.0%
分からない	56	11.9%
その他	9	1.9%
合計	469	100.0%

＜「その他」の主な内容＞

・物件による
・築２年～５年
・築年数ではなく既にリフォームしているか家の状態による
・築年数ではなく、暖かく小さい家が希望
・地域の遺産に思えるような古民家



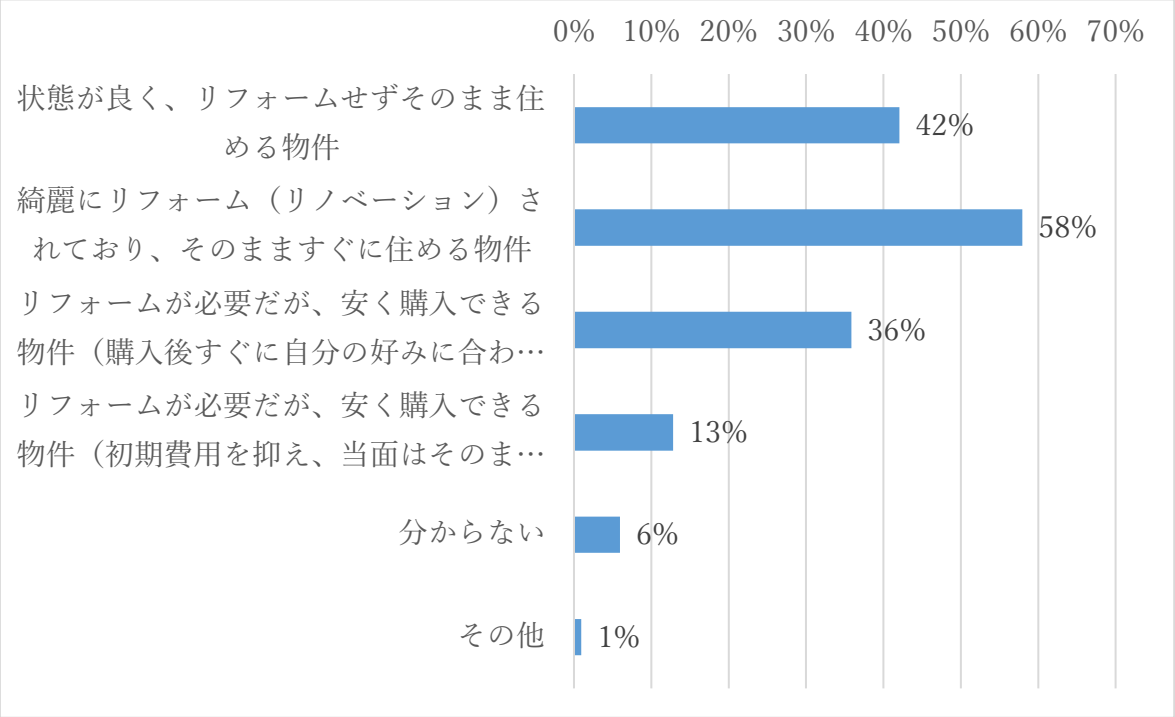
Q12：仮に中古住宅を取得するとした場合、どのような物件を希望しますか？【複数選択可】

	回答数	割合
状態が良く、リフォームせずそのまま住める物件	177	42%
綺麗にリフォーム（リノベーション）されており、そのまますぐに住める物件	244	58%
リフォームが必要だが、安く購入できる物件（購入後すぐに自分の好みに合わせてリフォームする）	151	36%
リフォームが必要だが、安く購入できる物件（初期費用を抑え、当面はそのまま住む）	54	13%
分からない	25	6%
その他	4	1%

（N=421）

＜「その他」の主な内容＞

・交通環境、近隣環境が良い物件
・駐車場がある物件
・交通が便利。雪かき不要
・マンションが良い
・その家で暮らしている想像ができるかどうか



Q13：住宅取得支援に関して、アンケートでお聞きした内容以外のご意見等がありましたらお聞かせください。

＜特に多かったご意見＞

・空き家の取得・活用支援、リフォーム補助、空き家情報の提供に加え、老朽空き家の解体補助など、空き家対策の充実を求めるご意見

・人口減少対策の観点から、住宅取得支援は若年層や子育て世帯を優先し、支援内容を手厚くすべきとのご意見

・中古住宅購入後のリフォーム支援や、高齢者が暮らしやすい住宅への住み替え支援など、取得だけでなく、取得後の改修や住み替えを支援すべきとのご意見

・住宅施策と併せて、バス路線や交通利便性の確保、除雪の充実など、安心して暮らせる生活環境づくりが重要とのご意見

＜頂いたご意見＞

・暖房光熱費が上がっているしエコ効果があるので、家の断熱性能を上げる工事への補助は良いと思います。
・小樽市内に住む理由は職場が小樽市内にあるためなので、働くところがある活気ある街であれば、住み続け、いずれは住宅取得を検討したいです。
・住宅取得価格の 4 分の 1 から 5 分の 1 程度の補助があれば、取得がしやすいと思う
・街中のマンションを若い時に購入しておいて良かったと年老いた今切に思います、隣室もすぐに買い手がみつかりましたし。
・全てに関してですけど、どんな補助があるとか、どこに記載しているのかわからない。ホームページも見づらい、探しづらい。小樽市はもっとアピールが足りないと思う。もっとアピール力や上手く発信ふる力を求めます
・以前土木課に空き家バンクについて聞きに行ったが対応がなかった
・人口減少を考えると子どもがいる人に対しての支援をより充実した方がよいと思います。
・歴史や文化の街小樽だからこそ観光地としての魅力があるのに、そこで生活する人が少なくなることはその魅力が失われていくと思います。
・市外道外企業のホテルばかり建ちそこで働く市民はいないので市外から働きに来るから税収は市外道外へ。せっかく観光客が毎日来てくれているのだから、この住宅取得支援をしっかり PR して小樽へ訪れた人がここに住みたいと思ってもらうことが重要かと思います。観光客だけではなく小樽市で働く人に対しても市外から通うのではなく、この支援を利用したら市内に住みたいと思える内容になれば、人口減から増へなることも期待できると思います。また市内、市外の人が新たにこの支援で住宅取得した後も住み続けてもらう為に小樽市全体で受け入れ体制を整えることが必要かと思います。
・住宅を取得すると維持管理が、自己責任であり、経済力や計画性が必要。補助金だけでは解決しない。相続時や自然災害、雪捨て問題、ご近所トラブルなど最後まで責任ある

対応できる方が取得してほしい。
・住宅取得支援があるから小樽が選ばれるとは思えません。住宅の金額やリフォーム費用が高くなりすぎているので、想定されているその支援金額は恐らくサービスとして霞むくらいだと思うので、先述したように転出されない為にどうするか考えた方が良いと思います。ある程度お金を稼いでいる方を誘致できるような素敵な市政になる事を望んでいます。今考えられている住宅取得支援の元では恐らく税金ですよね。ばら撒く必要はありません。小樽市が魅力的であれば小樽市が身を削らなくても移住も増え転出も減るのではないでしょうか。
・小樽への定住増加を目指すなら駅周辺など利便性のよい住宅で格安の物件になるよう住宅支援を行っていく必要があると思います。「仕事は札幌でも住むのは小樽」という人を増やしていくことも人口減少を緩和させるひとつの手段だと思います。
・あれば小樽での住宅取得や移住を後押しするひとつの要素となるのは確実ですので良い策と思います。自分が数年前に移り住んだ際に補助や制度がないか探しましたがなかったですね
・住宅を買うと言う選択はありません。自分は終活をしている所で持ち物を処分している所です。そう言うわけで今回のアンケートはお役にたたなかったと思います。
・道営住宅が小樽駅付近のお寺の隣の元小学校に建てれらたが市営住宅に空きがあり又空き家も多い。
・市営住宅の空きは市外から通っている市職員の社宅（公務員宿舎）兼任したらどうか？又空き家や公営社宅は道職員や国家職員の公務員宿舎兼任したらどうか？
・市営住宅のボイラや公共の電気代などを町内会代金から出しているが出していない市営住宅もあると聞く。そのせいで町内会代金が高くなるので、小樽から補助を出して欲しい。又一部の市営住宅は花壇や公園が設置されているがそこに住んでいない住人にも解放して欲しい。
・住宅を購入した後にリフォームや改築の際にも支援策がありますと発信してくれていると小樽に住みたいと思っている方や小樽に住み続けようと思っている方が増えると思います。このような支援策を自分で探さなければ気付かないようにせず、宣伝するようにすると良いと思います。
・実際に実家が空き家になり数年経ち、やっと手放すことができました。中古物件でも必要としている方がいると思うので、移住促進や中古でも購入できる補助金などがあれば、若い方が買いやすいと思う。
・住宅取得支援をしても交通の便が悪ければ人は住まないので鉄道、バスの移動手段の強化をお願いしたいです
・小樽市は産業が弱く若者が働く場所が少ない、坂が多い上に、除雪・排雪も行き届かないし税金も高い、高齢になっても市からの援助が少なく非常に住み続けるのが困難な街だと思う。人にも勧められない街だと思います。材料費や人件費の高騰の中で新築住宅も高騰しており 40 年や 50 年のローンが出てきている中で目先の支援だけでは小樽に住宅を考える人は増えないと思う。中古住宅にも相当な支援も必要だと思う
・現在、望洋台に住んでいます。次の世代、次の世代とうまく住み替え進まなければ、こ

のエリアがどうなるのかと心配になります。
・私も含め、高齢の１人暮らしの賃貸はほぼ断られるようです。
・小樽では、高齢者が郊外の一軒家（バスも不便）から便利な地区への移転希望が増えるでしょう。住み続けられるよう、市の政策を願う。
・市内の空き家を市で管理または買い上げ、そこから興味のある人へ賃貸、または購入できる制度があればいい。
・売り土地も出来るだけ市で買い上げたりして外国人の土地取得及びトラブル防止のためにも市は対策を考えてほしい。
・現在の住まいの地域が人口減少でバスも減便になり病院も介護施設も少なく、今はまだ大丈夫ですが、今後自分が高齢者になった時の事が心配で、市内の中心地などに転居出来る制度があればいいと思う事もありますが、今の家が売れなければ住み替えもままならないのが現状です。高齢者対策と若者の小樽定住・移住対策の両輪で住宅取得制度を考えてみるのも必要かと思います。
・実際には今の家で最後まで住み続けるので住宅支援を考えた事が無く、特に意見を思いつきません。
・小樽市外の人が移住したくなる政策を考えて欲しいです。
・今回、住宅支援のワンテーマでアンケートをしていますが、それだけだと近視眼的です。この急速な少子高齢化社会における街や地区全体のあり方はいかにあるべきかというもっと大きな視点からの住宅支援の位置付けやあり方を考えて行って欲しいです。というのは、定住促進策を考える場合、住宅のことだけを考えていてはダメで、例えば、市内の小学校をどのような地区でどう再編するのかや、各地区で歩いて買い物に行けるスーパーが不足している買い物難民の問題や、生活利便施設の提供具合であるとか、市外から小樽に住宅を取得しても、生活利便施設が不足し、結局、住みにくくて、市外へ出てしまうという本質的な市外流出問題は解決しません。この地区に住んだら、本当に住めるのか？住み続けられるのか？という地区全体の永続性を考える街づくりを各地区で考えてもらいたいです。そこで、施設など不足が発生する問題は、きちんと市議会に出して、緊急の問題として取り組むべきです。もちろん、人口減少社会ですから、今ある地区が全て残る必要はありません。統合や集約などのコンパクトシティ化を含めて、各地区の再編を考えて欲しいです。でないと、後になって、店舗が足りないとか、銀行の支店がないとか何かの施設が足りないなどの問題は、結局、暮らせないという結果になります。もっと大きな視点で、各問題を複合的に考えて行って下さい。どうぞよろしくお願い申し上げます。
・崖崩れ危険区域等、不動産業者の説明義務違反、先住者による排他言動などを経験しており、そういった移住者専用の相談窓口をNPOなりで設立し、事例を公開できれば助かります。
・何のための住宅取得支援なのか、今ひとつ不明。人口減少対策なら、支援を受けた人は一定期間住み続ける等の条件を課べきでは？
・古い住宅だが、一部手直しや修理することで終末期まで住み続ける予定
・対象者の年代や家族構成（子供の有無、年配者の同居など）などによっても、その支援

の希望が違うと思います。その辺の質問項目があればより良いアンケートになっていたのではないでしょうか？6 年ほど前に自分は小樽に U ターンとして自宅を保有しましたが、購入時点では特に市から何かしらの支援があるとは思っていなかったので調べることもしませんでした。仮に、今後に住宅支援ができるようであれば広く告知をしてください。若い方々、市内在住者だけではなく全国に向けて U ターンや I ターンの方々にも是非とも告知してください。

・住宅の解体にも膨大な費用がかかります。空き家を減らすためにも、小樽市の解体費用の援助はありますか？検討して欲しいです。小樽市の財政が厳しくても、必要な援助事業だと思います

・近所にも空き家が多くなってきているのを実感しています。住宅取得支援が確立され小樽に戻って来る人、移住しようと考える人が増え、空き地・空き家がうまく利用される。というのが理想的ですが、それは利便性の良い市街地であって郊外では難しいのではないかな～と思います。今回のアンケートの趣旨からはズレてしまいますが、住居を決める条件はそれぞれのライフステージに合う社会資源が身近にあるか。が重要だと思います。また、冬の除雪問題も住居を決める一つだと思います。

・地域によっては古い住宅や空き家が多いので、解体費用補助などがあっても良いのかもしれません。

・余生を鑑み住宅への資金投入は考えものだと思っています。

・移住しやすい資金制度の導入、銭函地区のベッドタウン化に向けた取組、塩谷、桃内、蘭島地区の活性化事業、除雪問題の改善、不動産価値が低迷している地区の向上化、空き家の活用及び解体費用補補助や放置物件のペナルティの強化

・雪かきに関してどうするか？戸建ての場合、近隣との関係。民泊が多くなって来たが、路上や無断駐車、路上喫煙・ゴミ問題などが気になる地区が有る。民泊マップを作成して欲しい。

・賃金は上がらない、もしくは上がり幅に比べて物価の上昇が大きすぎるし、COOP の灯油は 10 月から 15 円/L 値上げというニュースも流れていた。こんな状況ではとてもじゃないけど大きな買い物をする気持ちになれない。生活に余裕がないと家を建てよう（買おう）とは思えないのではないか。極端な円安やイスラエル、アメリカの侵略戦争のせいで、食費や光熱費、全てのモノの値段がこれから急激に上がるのは確実で、こんな不安がある世界情勢なのだから、この先、自分の給料でローンや家賃が払えるか計算する時に払っていける確信が持てない。国が傾いているせいで国債の長期金利が上がり、ローンを組んでも払えるのか見通しも立たないし、借金して家を買える気がしないのではないか。空き家対策をしたいのであれば、持ち主から買い取って（もしくはもらい受けて）ユニバーサルフリーに配慮したリフォームをして売り出す（貸し出す）時に、住民票を移してもらうコトを条件に、民間より安価に取り引きするしかないと思う。望洋台や桜町、高島など、空き家がものすごい数だが、誰も住みたがらないのは、冬が大変だから。私は以前余市に住んでいたが、余市と比較して小樽市は市道の除雪がとても悪いし、坂があるので自転車も使いにくい。そして年々交通の便も悪くなり、除雪時に車道の置き雪がひどくて、市道沿の家は雪かきがとても大変。旭川は家（駐車場）の間口に置き雪

をしない工夫もしているらしい。あの車道を除雪した重たくて硬い置き雪の雪かきさえなければ、住み替えたいアパートもあったし、やはり冬の雪かきの問題は、家（駐車場）を選ぶ時にとても重要だと思っている。空き家は、例えば市営住宅として管理して貸し出すなどの工夫が必要では？安くて綺麗なら不便でも来てくれる子育て世代はある程度見込めると思う。老人は不便な坂の上から街なかのマンションに住み替えるケースが多いし、そういう人たちには町中の空き家を整備して斡旋するのはどうか。流石に皆そろそろ気付き始めてもいい頃だと思うが、市場原理に任せた資本主義は限界を迎えていて、極々少数の金持ちとその他の貧乏人に日本人が二極化しつつある今、いくら民間におもねる政策をとったところで人は増えない。税金で住宅や医療、保育を手厚く補助していくしかない。人間は衣食住が足りてはじめて一息つけるものだから、いくら街が観光地として魅力的だからと言って、住むのはそれとは別でしょう。港の開発に何億も使う金があるなら、空き家をどれだけ取り壊すことができるのか？水道代や下水道料金などを下げられるのでは？そしたら住んでくれる人も増えると思います。水道なんかの社会基盤は儲からないから公共で運営しているわけで、少しはこの街に住む多数の庶民（世界的には先進国株の賃金からすると完全に貧乏人）の暮らしを支える政策をとらないと。アンケートで簡単にいいアイデアは得られないと思う、真面目に実直に市民の生活を支援して下さい。

・転勤族なので多くの町に住んできました。坂の町小樽はほかの地域に比べとても生活しづらいです。地理的に仕方がない側面も勿論理解しておりますし行政の努力も認めます。しかしながら結果として小樽市潮見台小学校近辺を探しましたが築 40 年から 60 年ととても現実味がない物件ばかりです。死亡事故も起きており、今だに子供の送り迎えの日々です。補助金も有難いですが長期視点での安心安全に暮らせる町づくりと共に進めていただきたいです。
・古い家がありますが（親が以前建てた）ずっと放置してあった為リフォームも厳しく解体費用もとても高く困っています。市の解体費用の補助も見ましたが鉄筋コンクリートでおそらくアスベストが使用されているので解体費用が新築の家を建てる以上にかかりそうです。補助金がもっと多ければ解体して家かアパートを建てるなどしたいのですが。
・若者の小樽への移住に支援して人口増加、街の活性化を推進してほしい。
・小樽は坂が多いし、バスも減便され、買い物や通院しやすい場所に住みたいです。
・若者・子育て世帯が、特に恩恵が大きいと思うので小樽市内外で住宅取得を検討している方が広く対象になるような施策の設計が望ましいと思います。所得によって金額の幅があったとしても少しでも補助があれば嬉しいと思います。また、インターネットや SNS を通じて広く対象の方々に周知できる仕組みづくりも同時に必要だと思います。
・住宅取得と言っても、年齢などによってかなり違いがあると思います。子育て世帯なのか、介護世帯なのか、自分たちが歳をとってバリアフリーにしたいのか。その時々に合わせてのリフォームなどの補助事業があればなおいいと思います。
・小樽駅周辺は利便性が高い一方で、駐車場の不足や月極料金の高騰が市民の負担となっています。住宅取得支援とあわせて、中心部での生活実態を踏まえた 駐車場に関する補

助制度の検討 をお願い申し上げます。
・住宅取得支援と空き家対策をリンクした取り組みが、いまの小樽に最も適している取り組みではないかと思われます。空き家の実態と、その克服を市として強力に推し進め、住宅取得支援事業との連携が速やかに実行できる法の整備を含めた取り組みがあれば良いのにと思います。
・空き家物件取得の際に、購入し実際本人が住む事が条件なら、一律〇〇〇円補助します、的な制度が有れば空き家は減ると思う。場所等の制限は設けないで、(花園、稲穂、色内等はダメ的な) 補助が有れば、購入者は増えると思います。今回、中古物件を購入して、つくづく思います。
・住宅取得支援も大切であるが、小樽市における、適正な土地や家屋の価格維持は大切と考える。助成も大切であるが、投資対象の様な価格高騰とならないことを望む。外国人を不当に差別する気持ちは毛頭ないが、外国人等（ここには日本人ももちろん含まれますが) による投機目的で、小樽の大切な自然や生活、景観が損なわれることのない様な、監視機能も希望したい。また、正当な税徴収となる様お願いしたい。小樽市で子育てをしたいと考えている方々はたくさんいらっしゃると思うが、他の制度も絡めて、住みやすくなる事を願っております。
・地区ごとの冬季の徐排雪計画の明示、要望に対する実行計画
・住宅支援は無いよりあった方が良い程度です。小樽市に積み続けるか否かは住宅の問題ではなく仕事があるかどうか、高齢者については病気の時に十分な治療を受けられるかどうかだとおもいます。まずは小樽で仕事をしている市職員は小樽市の住人であることでしょう。小樽市で働いているのに、市外から通勤している人は、小樽に住んでほしいと思います。それとは、別な話になりますが、保健所が、築港に移転したのも、不便すぎです。年寄りに優しくないと思います。
・小樽市の人口減少という喫緊の問題に対しこの住宅取得支援も重要施策の一つと思われる。市外への流出防止や移住促進など総合的な見地から議論して頂きたい。
・親の住んでいない家 (一戸建て) の処分に困っています。この先住む予定もありません。そういう家が小樽には多いですよね。
・売れそうにもないので壊す場合の補助金も考えて欲しいです。
・二世帯住宅向けのリフォーム支援
・新築注文住宅は既に夢の彼方に去ってしまったから、人口対策としての住宅取得支援は中古住宅取得からのリフォーム支援しかない。
・後期高齢者に成った場合 自家用車が無くてもタクシー以外の手段で移動に困らない地域で有れば、安い中古住宅を購入したいと思う。
・小樽市でも譲りたい家主と貰いたい人のマッチングサイトが有ると良い
・住宅そのものよりも除雪に重要性を感じます。除雪付の住宅なら検討有りです。
・道路の舗装計画があると言われ、札幌から銭函に移り住宅を建て、35 年、いまだに家の前の道路が未舗装道路です。住宅の取得支援だけでなく、地域の環境整備、向上にもご尽力を頂きたいです。
・70 代に入った夫婦、現在の持ち家に住み続けるには家の周りの手入れ雪投げに頭を抱え

ています。足が不自由な夫、腰膝内臓に持病のある私、免許返納した今、通院の足はバスしかありません。そのバスも減便の上値上げです。中心部から離れた地域に住んでいる為利便性の良い中心部への引越しも考えてみましたが 2 人の年金を合わせても家賃を払う余裕はありません。家賃の補助制度があれば助かります。

・小樽は空き家が多く、崩壊するのではないかと思われる、住宅があります。そちらの補助もあれば良いと思います。
・他の市区町村から支援を受けて転入した場合は最低 10 年以上居住することなど、条件を付けたらいいと思う。更に子育て世代は割増支援を付けたらどうか。
・市内は全体的に立地や交通便の割には全体的に高く感じます。特に長橋から余市方面、高島方面、最上方面など公共の交通期間が少なくバスもそこまで走っていない割には駅前より少し安いだけかと。安くてもかなり古い建物が多い。取得支援があっても住みやすさを考えるとやはり長くは住みにくいのかと。銭函、星野方面は札幌市と目と鼻の先なので多少の高さは気にはなりませんが、前述あるように長橋から余市方面は買い物出来る場所も少なく、稲穂や色内、花園など線路沿いの地区と比べるとかなり不便です。支援制度があっても車がない家庭が住むにはやはりかなりハードルが高いと思われます。それにより小樽に住むよりは札幌など交通便が良い方を選ぶかと思います。
・雪かきやバスなど住まいよりそちらの方が気になるし、一人だと買い物など行きやすいなどがポイントになります
・現在は色内に一軒家で便利なので､満足していますので､住宅取得支援には意見はありませんが これから行動するひとは大変でしょうね。
・良いなと思った土地でも登記がきちんとされていなかったり、相続者が複数人居たりすると買えないのできちんと整備して欲しい。
・住み替えというより、一人で快適に暮らせる場所が今の場所なのか、別の場所なのか、２人でなのか、まだ考え中でまとまってません。
・小樽市の郊外に住まわれている人が、交通の利便性の高い市街地に移住することを促進する施策をこれまで以上に進めては如何。
・子どもがいる若い世帯への積極的な支援。特に空家をリフォームして住宅取得に対する厚い支援策。
・住宅取得だけでなく空き家の始末についても補助して欲しい！
・土地も中古物件も不動産会社に掲載されない物件などもある。背景には不動産会社の手数料が高いからという意見をよく耳にする。売る側、買う側双方に負担が大きいため、そう言った制度も見直すか、補助金を多くするかしないと、小樽市以外に流れることもあるようです。
・住宅補助、特に耐震耐火の補助金に興味がありますが、なかなか小樽市の財政上難しいと私的に考えております。そのような中、市民を思い、耐震耐火補助金を考えてくださっていることに誠に感謝いたします。
・差し迫った問題はないが、現在望洋台に居住しており冬季の除雪がだんだん大変になっている。公営住宅を含め集合住宅への住み替えも必要となる可能性も否定できない。
・子育て世代に対する住宅取得補助を厚くしていただきたい。また、小樽の企業に勤めて

いる方で小樽市以外に居住している方への補助も検討して欲しい。
・リフォーム、改修等の条件を利用しやすく緩くできないものでしょうか？
・住宅の立地状況、地域の風土、住民の民度、冬期間の除雪、交通機関の利便性等、医療体制の充実等しっかり時間をかけた判断が必要だった。
・観光名所小樽だけでは市民が良質の暮らしは望めない。
・収入に関係なく、市営住宅に入れるようにして欲しい。
・公団を減らして空き家を利用させる。独居老人宅の空き部屋を商大生に安く提供し、老人の見守りを行う。
・小中学校での児童数減少を緩和するために、就学児童がいる家族への補助を優先してほしい。
・こういう支援策はシニア層には届きにくく感じる。聞かなければ知ることができない支援では意味が無い？施行会社等のフォローや分かりやすく簡単で、しかも不正が起こらない施策を求める
・小樽市内に結構空き家住宅が多くあり、所有者は解体費用がかかるのでそのまま放置、購入希望者は上屋があるので購入しにくいということが見受けられる。解体かかる費用の補助をすることでもう少しうまく土地や家屋の取得が進むのではないだろうか。
・年配者よりも税収が多く期待できる子育て世代に全力を注いで欲しい。南幌町などを参考に若者が住みやすい街にしてほしい。先ずは若者で税収が上がれば市の財政も潤い年寄り世帯にもサービスが届くようになるはず。子は宝の精神で若者が住みたくなるような街づくりを期待します。
・取得も大切であるが、所有している不要な土地等の市や国への寄贈等の手段を充実させてほしい。
・とにかく周囲に空き家が多すぎて蛇などの獣が住み着いている。草木もそのままになっており市道などにせり出しており非常に危険。冬は空き家の屋根に雪が積もって子供達の通学に非常に危険な状態になっている。景観もよくないしその辺の対策を早急に望みます。
・除雪が行き届いてる とかそういう面も住み続けるには必要だと思う。私もですが、自分で除雪出来なくなったら 今の場所には住めないと考えているので。
・固定資産税などの維持費用についても考慮いただきたいです。
・現在戸建てに住み、将来的には市内中心部（花園、稲穂）の中古マンションに移動したいと考えています。この場合、家屋の解体、土地の売却に関する課題があります。新居への移動を含めこれらを総合的に支援してくれる体制を市あるいは関連業者に期待したい。昨年の空き家セミナー後の個別相談では全く期待値以下の対応を受け、がっかりしました。新居への移動の前に照明設備の LED 化を行うので、ますます移動は遅延の見込み。
・とにかく、バスの不便さと除雪問題で悩みをかかえています
・この企画が人口を維持や増やすための政策だとしたら相当な金額をあてがわなければ無駄に終わる
・小樽市の交通機関が北海道中央バスだけなのが不満、競合するバス会社があるとよい。

先日もタイヤがバンクしたバス、乗り場にいても発車するバス、急ブレーキなどがあった。

・空き家の改修には一定の限界があることから、既存住宅の活用だけでなく、街全体のレジリエンスを高める観点からも、一定の周期で住宅の建て替えが行われるなど、住宅ストックが適切に更新されていく仕組みも重要ではないかと考えます。

・私自身、現在、居住誘導区域外で戸建て住宅を建設中ですが、もし居住誘導区域内での新築に対する支援制度があれば、区域内での建設も選択肢として検討できたのではないかと思います。実際に土地を探す中では、市内で利便性が高く、戸建て住宅の建設に適した土地は価格が高く、取得が難しいと感じました。新築住宅を検討する中で土地を探しましたが、以下のような課題があり、土地選びには大変苦慮しました。

➢空き地となっていても市場に出ていない土地が多く、住宅地として活用されていない土地が見られる。特に小樽潮陵高校周辺などは、眺望や利便性の面で住宅地としてのポテンシャルが高いと感じますが、まとまった土地が分筆されないまま活用されていないケースもあるように思います。→市が主体となった区画整理など、未利用地を住宅地として活用しやすくする仕組みを検討できないでしょうか。

➢市場に出ている土地についても、既存の土留め・擁壁の改修や造成など、土地価格以外に大きな費用が必要となるケースが多い。→居住誘導区域内における造成・擁壁等の費用負担を軽減する支援制度を検討できないでしょうか。

➢道路との接続や高低差などの問題から、住宅を建設するには適さない土地が多い。→個々の土地を活用するだけでなく、道路や宅地を一体的に整備する区画整理等により、住宅を建設しやすい土地を生み出す取り組みも必要ではないでしょうか。居住を促進するためには「新たに住宅を建てたい人が、実際に建てられる土地を確保できること」も重要だと考えます。ご検討のほどよろしくお願いいたします。

・年金額が定額なので、生活支援を考えて欲しい。

・不動産取得税の減額・免除／融雪機設置補助／旧家屋の解体費用補助／建築基準の緩和など取得にかかる費用そのものだけでなく、その関連費用の補助もあると嬉しいかも。

・除雪の問題や駐車場の問題が出るので前もってわかると助かります。現在住んでいる家は小学校の前の通りなので除雪が入ると思いましたがはいりません。あと隣のおばあちゃんは私が出かけようとしたり外に出るとずっと見ている人がいたり、近所にはいつもいきなり怒って話をするおじさんがいてとても嫌です。引っ越ししてからそう言うことがわかるより前もって知りたいので、何かトラブルに慣れ得る情報を共有したりできるオープンチャットみたいのがあれば助かります。

・除雪　環境整備　高齢者の多いこのまちで年をとっても皆が無理なく暮らせるための取り組みを大切にしてほしい。

・今後の人口減少を踏まえて、市内の住居をある程度集約する方が公的サービス、上下水道設備の維持、ゴミの回収、除雪、公共交通機関などを維持しやすくなると思う。合わせてこれらに従事する職員、社員の減少による負担を減らせるのではないかと思う。住宅取得支援に関して、各地で外国人による不当な開発、ルールを守らないなどの生活者も散見する。そのあたりの調整も必要と考える。

・リタイア後の移住で年金暮らしで障がい者の妻の介護もあり家計的にも支援がいろいろあると小樽の福祉、高齢者に優しい町作りとして好感度が高まる事でしょう。
・中古住宅を小樽市でバリヤフリーへリフォームして販売たまは、賃貸をしてほしいです。家族が下半身不随になりバリヤフリーの重要性に気がついたのですが、なかなかバリヤフリーはありません。
・補助もそうだが地震や災害などがあった時に手厚い支援があったらいいのでは？と思う。壊れてて住めなくても何もしてくれない話をよくニュースで見たりするので。
・既に市内でマンション購入済み。アンケート内容が持ってない前提となっているので、質問と回答がそぐわないものとなってしまいました。
・若い子育て中の世帯に対して大きな補助が有ると助かるかと思います。
・家屋税の減額制度があれば、もっと住宅取得意欲が高まると思います。
・小樽に住み続けるとしたら、築港駅近辺のアパート。そこに高齢になっても借りられる住まいがあれば、札幌に行かなくてもよいのかも。
・住宅取得以外に空地についても取得支援に関するプランが必要だと思う。
・若い人達に援助してほしい。小樽に長く住んでほしい為。
・中古物件でも耐震性とかキチンと住める物件が一覧であると大変良いと思う。これから人口が減ってくるにあたり街に集中して住宅街にし、インフラ整備等も短い距離で終わらせるようにするなど考えていかないとならないかなと思います。
・現在住んでいる家のリホーム補助金の検討をして欲しい。新光に住んでいるが病院やスーパーが近く暮らし易いからここに住みたい。
・銭湯が少ないので風呂の無い家もあり風呂取付の補助金制度有っても？
・小樽の中古物件は古すぎる　坂のある微妙な場所にあり買いたくない。
・自分もそうですが…年寄りが多くなると街自体も寂れて行くスピードが早くなると思います。40 歳以下の結婚して子供が居る家族が移住してくる場合に手厚く中古住宅購入費用補助（500 万位）を小樽に 10 年以上住むと言うような条件審査を付けるような大胆な策がほしい。
・小樽は生まれてからずっと住み続けていますが冬季期間が長く経済的、体力的にも辛いので支援が少しでもあり、市民は平等に与えられると皆さんが助かると思います。
・多少の住宅支援をされても、現在の物価上昇、税負担、変わらぬ給料、金利の上昇等、一般市民には住宅取得はかなりハードルが高く、結果一部の富裕層が特をするだけで市民の流出を食い止めることにはならないと思います。
・実家の相続や贈与などに対してリフォームの補助金があると良い。特に築年数が古いものは外壁や屋根などの断熱に手を加えなければならないので手厚いサポートがあると助かる。
・既に持ち家があるので、住宅支援制度を活用する機会はないと思うのですが。小樽市の人口減少と自宅購入費用の高騰は関連しない気がします。いくら補助をだしても、小樽市で暮らさない選択をする人も多いのかと思います。単純に空き家を減らしたい、再利用を目指すのであれば、他の地域のように道内外からの移住者への支援制度等を検討しても良いのではないかとも思います。

・小樽市内において、高齢者の施設やグループホームは多くありますが、障がい者（重度）のグループホームが不足しています。そのため親亡き後問題が深刻なで、多くの方は小樽市外で探すしかありません。空き家、中古住宅の活用として、障がい者のグループホームを考えてもらえると、人口減少も少しは、おさえられるのではないでしょうか？
・昨今のインフレにより住宅取得の費用は増加しているので、このような支援制度があるのは非常にありがたいことと思います。ただ、新築かリノベかにより補助が出るとかではなく、街の美化に貢献するような資金への補助とかの方が、結果街全体が美しくなり補助金の公共性が高まるのではと思います。
・住宅取得支援だけでは、若者や高齢者が地域に住み続け、定着していくことは難しいと考えます。住宅支援とあわせて、公共交通機関の充実、除雪体制の整備、医療機関やスーパーなど、日常生活に必要な施設の確保といった、暮らしやすい環境づくりが必要です。住宅を取得しやすくするだけでなく、安心して生活を続けられる環境を整備し、地域全体の利便性や持続性を高めることが、若者や高齢者の定住につながります。つまり、「住宅取得支援」だけではなく、「住み続けられるまちづくり」を一体的に進めることが重要です。
・子どもの学校の関係（良い物件があっても学区が変わってしまう。通学へ支障が出るなど）
・住宅取得には、居住地周辺の環境も大切と思います。近隣に公園、商店、病医院、飲食店、公共施設等の有無についても考慮する必要があると思います。また、自分の勤務先からの距離、子供がいれば小中学校や塾などの習い事からの距離なども考慮の参考になってきます。アンケートにするならば、こうした環境要素に応じた住宅取得支援も必要です。
・住宅取得に関しては、除雪状況や交通の利便性が重要だと思います。住宅問題が住宅そのものの問題ではなく、環境条件にあると思います。
・更地にするなど空き家の対策の徹底。住宅家賃に対する補助。
・新築前に側溝の蓋や道路との段差を無くする時など自己資金とのこと。小樽には側溝が多いため、土地購入する際に側溝を市の方で整備してくれる等あればプラスに働くと思います。札幌から移住する際に自宅前に側溝があることがまずネックでした。
・住宅取得支援も良いが、自分が死んだあとの相続などが心配。若いうちに住宅を手放して高齢者でも入れる賃貸などへの住み替えの補助などもあれば(あるのかわかりませんが)と思っています。
・小樽は空き家だらけです。そしてそのままの状態で放置されていますが、子育て世代には多少古くても広くて、音等の気兼ねが要らない物件を、高齢者には小さく生活できる物件が必要と思います。また小樽は画家や工芸などの芸術家にはとても良い環境なので、多少不便でも広々とした住居で生活できるような物件を斡旋して、市外からもたくさんの方々に住んでもらえるように安価で住宅取得できるように支援していただきたいと思うのですが
・親の家が、空き家で 2 件あります。壊しても固定資産税かかるし、今の生活でいっぱいです。

・戸建てやマンションへの住み替えばかりでは無い
・住宅所得予定がないのに、「住宅支援制度があったら」という設問が出た気がするが、回答しづらいし、質問意図がよくわからない。
・築年数の古い物件が多いので、候補から外れる。今後の人口減を考えると、購入後の再販は難しいと考えている。
・古い住宅のリホームは購入者の意向にまかせリホームする場合は業者さんに補助金を出す。子育て世帯は無料として思いきった制度を作る。
・移住希望者への広報や支援体制を充実させる必要があるのでは？　道内の他市町村と比べても、小樽市はこの点の施策が手薄なように感じられます。全国的にも魅力のある街として名を挙げられることの多い街なのに、機会を逃しているように思われる。移住者へのアプローチや定住策の充実を図って欲しい。
・中古住宅の紹介情報
・私の住んでいる地域では高齢者（８０歳以上）が多く、今後１０年も経過すると空き家が目立つ状況になります。子育てで経済的にも大変な若い世代に、そういった空き家に低家賃や補助による取得によって住めるよう、行政サイドが主導的に民間に促す制度などに取り組んではいかがでしょうか。
・除雪も視野に入れて欲しい
・現在住んでいる場所の近所で空き家が増えており、劣化が激しく安全面・景観の問題が不安。取得だけでなく解体の補助も必要かと思います。
・築年数が古い場所に住むことは虫等も侵入することから若い人達にとっては重大な選択肢になると思うのでリフォームされていれば選択しやすくなるのかもしれない。
・Q8 の「住宅の取得に対する補助」が具体的に何を補助するのかよく分からず、選択出来ませんでした。自分の高齢化を考えると、一人で雪掻きは大変なので、立地の良い（日常的買い物、交通の便など）ところで市営住宅等が提供されると有難いです。
・現在、緑町に住んでいるが、小路などに空地、空き家がかなり見受けられ、町内会の世帯数も減少している。若い世帯が家を購入や 新築できるよう、助成制度の拡大を望みます。
・小樽市は空き家が多い印象ですが、築年数が古いため、購入には至っていません。また、新築であっても部屋数が多すぎたり、購入には高額な費用が必要なため、検討に至っていません。持ち家に限らず、賃貸においても単身世帯用の物件はよく見かけますか、ファミリー世帯で住むことができる住宅は少なく感じています。ファミリー世帯、子育て世帯が住むことができる住宅が増えるといいなと思っています。
・空き家（物件）問題から私なりに小樽市役所として空き家情報や住宅取得の方法を提供してもらいたい。住宅取得の税金・固定資産税・補助等の情報提供もお願いしたい。差し押さえ物件等の情報ももっとあれば良いと思う。
・若者、子育て世代がさらに優遇されるような支援でないと小樽に長く定住する人は増えないと思います。
・家賃補助派本当にお願いしたいです。よろしくお願いします。
・空き家があります売ります貸しますをもっと身近な家を検討してる(若い人)地元の人に

ここありますよとわかるように(もうそういうのあるのだとしたらすいません)したらどうでしょう
・公共交通の利用出来る場所が良いと思います。
・ガラスが割れていたり、半ば崩れていたりの状態の無人の放置住宅、建築物が思いのほか増加しており、観光地の景観や治安を壊している気がします。一方古い建物でもリノベをして、商店として再生されているものもあります。所有権の問題等難しいのは理解していますが、古い建築物の撤去補助や、再生促進などで、再活用の方策を見出してほしいです。
・住み始めて築 10 年ほどなので、しばらくは考えてないですが、将来的に何かしらの補助があるとありがたいと思います。・小樽は空き家が増えているので助成金を出して若い人が外国人が買いやすくするといいと思います。
・期待して小樽外から来ましたが、複数世帯が住む私道も含めて除排雪体制をしっかり考えていただかないと、今後余裕ができた際には残念ながらここで住み続けようとは思わないと思います。
・リフォーム／断熱改修補助に関して、耐震改修を必須にされると総額が上がって手が出せませんので、別にしていただきたいです。
・住宅取得補助が中途半端な金額となっており、利用意向が高まらない。
・小樽市の中古住宅であれば、補助ではなく、市で買い上げて、無償とは言わないまでも安価に配布するようなことを考えても良いのではないか？住宅取得補助が２５０万程度では、札幌が最大２２０万出すことを考えると、小樽ではなく札幌に住む人が多いであろう。思い切って、日本で一番住宅補助が出る、もしくは日本で一番住宅を購入しやすいなどの特色が必要かと思う。
・現在親の介護をしているので、親が亡くなってからの一人暮らしをするにあたり家の解体をしなければならない。その先をどうするかを模索中です。住宅支援については大変有難い事とは思いますが、高齢者が人口の半分をしめ、不安を抱え生活している方々が多いと思います。安心して生活できる環境が少しでもできる事を期待しています。
・空き家が目立つので、立地適性計画の重点区域を中心に中古住宅を市が積極的に売り出していけば良いと思う。
・私たちは高齢で、住み替える体力も無く、今の古い家に少し手をかけて長く住みたい、その後は介護施設かな？というところです。子育て世代くらいの人たちを支援してあげてほしいです。
・市内に沢山ある空き家(土地)と移住や新築したい人たちとをマッチングする制度があると良いです。
・自分は生活保護受給者ですが、家主の都合で引っ越しをしなくてはならなくなりました。しかし現在の小樽市では家賃が高く、住宅扶助の範囲内で借りられる物件がなかなか見つかりません。家賃の高い小樽で就職しても、より家賃の安い札幌に住まいを置く人もいると思います。若い移住者を増やすためにも、「小樽に住むこと」そのものにメリットを感じられる住宅支援が必要ではないでしょうか。また、比較的家賃の安い住宅は桂岡、桜、塩谷など中心部から離れた地域にも多く、車を持たない人にとっては交通の不便さ

が大きな負担になります。住宅支援とあわせて、公共交通など生活のための移動手段についても考えていただきたいです。小樽には空き家も多いため、大きな空き家を活用し、高齢者や単身の中高年層などが低家賃で暮らせるシェアハウスのような仕組みも検討できないでしょうか。私は猫を飼っているため市営・道営住宅への入居が難しく、ペットと暮らせる低家賃住宅があれば利用したいと思います。就職氷河期世代など、働いていても所得が低く、持ち家を持たない人も少なくありません。住宅を「取得できる人」への支援だけでなく、低所得者や単身者、高齢者、若い移住者などが小樽で安心して住み続けられる仕組みも、今後の住宅政策として考えていただければと思います。

・住宅取得後の近隣の環境や騒音等があったときの対応があれば取得しようと思う。賃貸だと引越できるが取得だと難しい。人口減少が目に見えて分かるように広報の最後のページの住民基本台帳人口の欄に前年同月比の記載もあったらと思う。
・小樽市は空き家が目立つなと思います。名義の人が高齢で判断不可な場合もあると聞きました。そういった土地や家屋の有効活用・小樽市への招致がもっと進むといいなと思います。その為にも支援はあった方がいいと思います。
・小樽市の人口減の歯止めを意識したいのであれば、シニア層には家賃補助より国保税の減免対策の方が効果がある。例えば、医療費　年間5万円以下のシニアの国保税2万円減をするとかの方が小樽市に住みたいと思う人が増えると思う。医療費負担減にもつながり市民の健康意識も高くなるので一石二鳥になると感じる。
・市内でも利便性の高い地域への移住を促進するような政策が必要だ。高齢化が高い小樽では、買い物、通院にしても自家用車がなければ難しくなる。かといって、バス賃の補助はこれ以上は増やせません。市住にしても、もっと中心部寄りに新設、移転をすべきではないか。稲穂のNTTの跡地などはいいと思う。
・既に住宅を取得してるのでわからないですが、これから取得する方には市の方からもっと中古住宅の情報などSNSで取り上げるなどの工夫が必要だと思いました
・なるべく地元の人たちの売買がいいね
・これから築年数の古いマンションがますます増えてくるが、大規模改修の予算が厳しい管理組合が多いのではないかと思う。また大規模改修のできる小樽市内の改修業者は少ない。札幌市などの業者でも使える修繕回収費用の援助を希望する。
・太陽光パネル設置の補助金支援もあると良いと思います。
・駅やバス停から離れた場所にある住宅は不人気になるので何らかの補助があると良いと思います。
・大型マンションを建てるのはどうだろうか。